

議会運営委員会県外行政視察レポート

委員長 中川隆一

このたび、議会運営委員会は、愛知県、三重県及び京都府を訪問し、①愛知県議会、②三重県議会及び③京都府議会における議会運営の状況について、④中村製作所オープンファクトリーにおいて伝統工芸と先端技術を融合させた地域密着型のものづくりについて行政視察を行ったところであり、その概要をレポートする。

1 日程及び視察先

令和8年4月21日（火）愛知県議会（愛知県名古屋市）

4月22日（水）三重県議会（三重県津市）

中村製作所オープンファクトリー（三重県四日市市）

4月23日（木）京都府議会（京都府京都市）

2 参加委員等

中川隆一	小山大志	飯野晋	河原井拓也
与口善之	高橋直揮	牧田正樹	上杉知之
北啓	青柳正司	笠原義宗	

3 視察先の概要

愛知県議会 ～議会運営の状況について～

- 議員定数 定数 102人、現員 97人
- 会派別議員数 自由民主党愛知県議員団 54、
あいち民主県議団 26、公明党愛知県議員団 4、
減税日本愛知県議員団 4、
無所属 9（県政自民クラブ1、日本共産党愛知県議会議員団1を含む）
- 議会運営委員会 定数 14人
〔自由民主党 8、あいち民主 4、
公明党 1、減税日本 1〕
- 本会議の運営
 - 代表質問
 - 割当方法 交渉団体 各1人
 - 質問方式 一括質問・一括答弁方式

- 質問時間 1人80分以内（質問50分、答弁30分）
- 一般質問
- 割当方法 改選後の議会運営委員会で、各会派の所属議員数を勘案した今期の質問順序表を決定。毎定例会、この質問順序表に基づき、各会派において質問希望者を調整の上、発言通告がされる。
- なお、質問者数は1日あたり概ね7人。
- 質問方式 一括質問・一括答弁方式
- 質問時間 1人50分以内（質問30分、答弁20分）

● 議会広報の取組

- 議会PRコーナー
- 平成9年12月、地方自治法施行50周年を機に、誰でも自由に見学することができる議会PRコーナーを議事堂1階に開所。明治12年に初の県議会が開かれて以来の議会のあゆみや議事堂の変遷、議会の仕組み・役割等を大型画面やタッチパネル、写真などを活用して県民に広く紹介している。
- 愛知県議会キッズページ
- 小学校高学年程度の子どもを対象に、家庭で保護者と一緒に閲覧したり、総合学習や社会科学習等の教育現場で利用したりできる愛知県議会キッズページを開設している。キャラクターやイラストを交えて議会の仕組み・役割等を分かりやすく紹介するとともに、ゲームやクイズを通じて、楽しみながら議会を知ることができる。

● 議会改革・議会活性化の取組

- 議会のデジタル化
- ・ モバイル端末の導入による委員会・各種会議資料のペーパーレス化
 - ・ 議会の開催通知等のメール送付
 - ・ 議会日程等のスケジュール管理アプリの共有
 - ・ 聴覚障害者の傍聴用音声反訳アプリの運用
 - ・ 来庁者案内表示用デジタルサイネージの設置
 - ・ 議員用web会議ブースの設置
 - ・ 委員会における公述人及び参考人からの意見聴取のオンライン化

◆ 主な質疑・回答

- Q 傍聴環境の整備について
- A 傍聴環境整備の取組として、手話通訳や要約筆記、磁気ループ受信機の利用などに加えて、令和6年からは音声反訳アプリを搭載したモバイル端末の貸出しを開始している。
- Q 愛知県議会PR動画について
- A 若年層向けの議会広報の取組として、令和3年から地元出身の声優等を起用して愛知県議会PR動画を制作・公開。もうすぐ有権者となる高校生

の視点で、議会の役割や仕事、審議の流れなどを紹介している。

□ 委員長所見

愛知県議会では、誰でも自由に立ち寄れる議事堂1階に議会PRコーナーを開所し、県議会の歴史や取組等について大型画面や写真などを大いに活用して分かりやすく紹介することで、県民に開かれた議会を目指している。

また、愛知県議会キッズページの開設では、家庭や教育現場で子どもたちが楽しみながら議会制度を学べる工夫がされており、将来の有権者となる世代への主権者教育として有効である。

若年層をはじめ、より多くの県民に議会への関心を持ってもらうための先進的な取組が進められており、本県においても、愛知県議会の事例を参考にしながら、議会広報等の取組につなげてまいりたい。



三重県議会 ～議会運営の状況について～

- 議員定数 定数 48人、現員 47人
- 会派別議員数 新政みえ 19、自由民主党 16、自民党県議団 5、
草莽 3、公明党 2、日本共産党 1、参政党 1
- 議会運営委員会 定数 9人
〔 新政みえ 4、自由民主党 3、
自民党県議団 1、草莽 1 〕
- 本会議の運営
 - 代表質問
 - 割当方法 5人以上の会派の代表者
 - 質問方式 一括質問・一括答弁方式、一問一答方式、分割質問方式
 - 質問時間 1人70分程度（答弁を含む）
 - 一般質問
 - 割当方法
 - ・ 1日の質問者数は原則4人。所属議員数（正副議長除く）に応じて各会派に配分し、定例会議ごとに議会運営委員会で協議決定。
 - ・ 各議員（正副議長除く）は年間通じて1回の質問ができることを配分の基準とする。
 - 質問方式 一括質問・一括答弁方式、一問一答方式、分割質問方式
 - 質問時間 1人60分程度（答弁を含む）

● 議会広報の取組

○ みえ県議会出前講座

県内の小中高校、高専、大学等を対象に、申込のあった学校を議員2名が訪問し、生徒等に議会の仕組みなどの説明や質疑応答を行う。

○ みえ高校生県議会

高校生に議会活動を体験してもらうことで議会に対する関心を高めてもらうとともに、高校生の意見を直接聴くことで議会での議論に反映していくことを目的に実施。

● 議会改革・議会活性化の取組

○ 三重県議会基本条例の制定

平成18年12月に全国の都道府県で初めて制定された議会基本条例で、分権時代を先導する議会を目指し、これまでの議会改革の取組を後戻りさせることなく、更なる改革に取り組むことを決意して制定に至ったもの。

議会の基本理念と基本方針を定め、県民の負託に的確に応えることにより、県民福祉の向上と県勢の伸展に寄与することなどを目的としている。

◆ 主な質疑・回答

Q 通年議会の導入について

A 知事専決処分を回避するために、平成25年1月から通年議会を導入。通年議会の導入により、コロナ禍などの緊急時において、機動的に対応できるようになった。

Q みえ高校生県議会について

A 議員役の高校生からの質問や意見に対しては、執行部役の各委員長がその場で回答をしているが、後日、各委員会で議論した上で、委員長報告に盛り込んだり、議員が参加校を訪問して、議論の状況や執行部の対応をフィードバックしている。



□ 委員長所見

三重県議会では、全国に先駆けて議会基本条例を制定し、議会の基本理念や基本方針を示して、議会運営や議員の活動原則等を明確化するとともに、議会改革推進会議を設置して、継続的に議会改革を進めるなど、分権時代を先導する議会を目指しているのが特徴的である。

加えて、県民の意向を議会活動に反映し、県民が参画する機会を確保する観点から、広聴広報機能の充実にも力を入れており、本県においても、三重県議会の取組を参考にしながら、議会改革等の取組につなげてまいりたい。

中村製作所オープンファクトリー

～伝統工芸と先端技術を融合させた地域密着型のものづくりについて～

● 概要

中村製作所オープンファクトリーは、三重県四日市市に拠点を置く中村製作所（※）が、自社ブランド事業を担う株式会社MOLATURA（モラトゥーラ）の運営により、令和5年6月に開設した体験型の公開施設。「作る・見る・食べる」をコンセプトに、製造業の現場を広く一般に開放し、ものづくりの背景や製品の価値を分かりやすく発信することを目的としている。

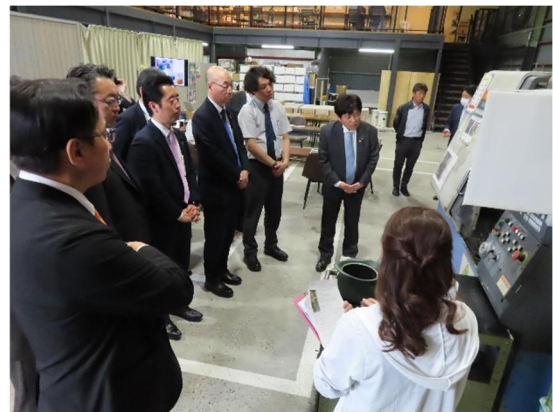
施設内では、自社ブランド製品である蓄熱調理鍋「ベストポット」や電子レンジ調理機「レンジスター」などの製造工程を見学でき、四日市の伝統工芸である萬子焼（ばんこやき）と金属加工技術を融合させたものづくりの特徴を体感することができる。

一番のヒット商品である「ベストポット」は、1000分の1ミリの高度な切削技術で鍋と蓋の隙間をなくし、熱を逃がさないことで、素材のうまみを逃さず栄養素も壊さない料理が手軽にできると、累計2万個を売り上げている。

また、併設された四日市ファクトリーカフェでは、これらの製品を実際に使用して調理した料理（「ベストポット」で炊いたご飯、地元食材を活かした料理等）を提供することで、製品の機能性や調理の魅力を実体験できる。

こうした取組により、中村製作所オープンファクトリーは、製造と暮らしをつなぎ、地域産業の理解促進と価値発信の拠点となることを目指している。

※ 中村製作所：1914年創業の製造業。精密切削加工を中核として、産業機械部品から航空宇宙部品加工まで手掛け、「空気以外は何でも削る」を社是にものづくりを続ける。



◆ 主な質疑・回答

Q 自社ブランド製品の開発について

A 最初は、切削加工技術を活かして難削材チタンのワイングラスや印鑑を製作していたが、様々な分野の方との出会いや、陶器も削れるのではないかと発想から、地元四日市市の地場産業である萬子焼と自社技術を掛け合わせて「ベストポット」の開発に着手し、自社ブランド製品が誕生した。

Q オープンファクトリーの開設について

A 町工場の人間として、働いている姿を見せたい、鍋を製作している現場を見てもらいたいという思いから、物産展への出展や補助金の活用といっ

た（公財）三重県産業支援センターの伴走支援を受けながら、「ベストポット」の製造過程の見学や体験ができるオープンファクトリーを開設。実際にMOLATURA商品を使用できるカフェを併設したことにより、これまで以上に中村製作所の技術や自分達の思いを伝えやすい発信拠点ができたと考えている。

□ 委員長所見

中村製作所オープンファクトリーについて、四日市の伝統工芸である萬古焼と高度な金属加工技術を融合させた製品開発は、地域資源と企業技術を掛け合わせた高付加価値化の好事例である。自社ブランド製品として展開し、その価値を直接、消費者に届けている点は、中小製造業の新たな成長モデルとして参考になると感じた。

本県においても、県経済の更なる活性化につながるよう、中村製作所オープンファクトリーの取組を参考としながら施策を提案してまいりたい。

京都府議会 ～議会運営の状況について～

- 議員定数 定数 60人、現員 60人
- 会派別議員数 自由民主党京都府議会議員団 29、
国民民主党・日本維新の会京都府議会議員団 11、
日本共産党京都府議会議員団 9、
府民クラブ京都府議会議員団 5、
公明党京都府議会議員団 5、京都が好きだ 1
- 議会運営委員会 定数 16人
〔自由民主党 7、国民民主党・日本維新の会 3、
日本共産党 2、府民クラブ 2、公明党 2〕
- 本会議の運営
 - 代表質問

割当方法	交渉会派に一律分と所属議員数に応じた分を配分
質問方式	一括質問・一括答弁方式、分割質問方式
質問時間	・一定例会における代表質問2日間の総会議時間数480分（240分×2日）のうち240分を質問時間とし、残り240分を答弁時間とする。 ・質問時間240分（120分×2日）のうち60分（5会派×12）を各会派に一律配分し、残り180分を会派議員数に応じ比例配分する。
 - 一般質問

割当方法	・一定例会における一般質問3日間の質問時間240分を各会派の所属人数に応じて比例配分したのち、20分以
------	---

上の会派について、20分単位に切り上げた時間数を20分で割り、質問者数を算出。

- ・会派の年間質問回数が当該会派の所属議員数を上回ることはないようにする。

質問方式 一括質問・一括答弁方式、分割質問方式

質問時間 1人20分以内（再質問を含む。答弁を含まない）

● 議会広報の取組

○ 大学生との座談会

府内の大学に通う大学生等を対象に、大学生の政治への関心を高めるとともに、府議会活動への理解を深めてもらうことを目的に実施。地域の課題や学生が疑問に思うことなどについて、広報広聴会議議員と意見交換を行う。

○ 出前高校生議会

正副議長や広報広聴会議議員が府内の高等学校に出向き、高校生と意見交換を行う。高校生が府議会や議員の役割について理解を深め、関心を高めてもらうことを目的として実施している。

● 議会改革・議会活性化の取組

○ 議会改革検討小委員会の設置

平成19年6月以降、議長諮問に基づく議会改革の検討を行っており、平成23年度から、議会運営委員会に議会改革検討小委員会を設置している。平成27年度からは議長選任後の6月定例会に諮問が行われ、任期の2か年度の間、議会改革の検討を行っている。

○ 傍聴・視聴環境整備の取組

- ・ 傍聴者への託児サービスの実施
- ・ 本会議（代表質問）における手話通訳を導入したライブ中継及び録画配信
- ・ 本会議（代表質問・一般質問）における字幕付き映像の配信

◆ 主な質疑・回答

Q 傍聴環境の整備について

A 本会議及び委員会の傍聴者が無料で利用できる、託児サービスを行っている。事前申込みをした上で、府議会の和室まで保育士に来てもらうか、府庁の保育ルームを利用することができ、傍聴者のほか、議員も利用できる仕組みとなっている。

Q 出前高校生議会について

A 府議会議員が学校に出向き、生徒と意見交換を行う出前高校生議会の取組を毎年8回程度実施している。学校へのアプローチについては、議会事務局と教育委員会が連携し、府立と私立の高等学校へ募集を行っている。

□ 委員長所見

京都府議会では、議会改革を一過性のものとせず、任期ごとに課題を整理しながら検討・実施していく仕組みとなっていることから、着実に議会改革の実現につなげることができている。

傍聴者向け託児サービスの実施など、誰もが議会にアクセスしやすい傍聴・視聴環境の整備にも力を入れており、こうした取組は、子育て世代や障害のある方などの幅広い府民の議会参加の促進につながっている。

また、出前高校生議会を継続的に実施し、若年層の政治参加意識の醸成にも積極的に取り組んでおり、議員が学校や大学へ出向いて直接意見交換を行うことで、若者が政治や議会を身近に感じる機会を創出している。

次代を担う若者から政治や議会に関心を持ち、参画できる仕組みづくりを進めることは重要であり、本県においても、京都府議会の取組を参考にしてまいりたい。

